

第3回水稲病害虫発生状況の調査結果について

兵庫県農業共済組合佐用事務所
JA 兵庫西佐用営農生活センター
光都農業改良普及センター
令和4年7月29日

1 水稲の生育状況

6月下旬から7月上旬にかけての平均気温は平年以上となりましたが、7月中旬以降は平年並となりました。降水量は7月上旬までほとんど無く、7月下旬にまとまった降雨が数回ありました。日照時間は7月上旬までは平年比189%と長くなり、7月中旬以降は平年並となっています。

生育状況は早中生、極早生品種ともに草丈は平年並、莖数は平年より多くなっています。

2 調査結果 (調査日7月28日)

病害虫名	調査結果の概要
いもち病	9ヶ所中6ヶ所の調査圃場で発生が確認されました。
紋枯病	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
ウンカ類	一部の圃場で発生が見受けられました。
ツマグロヨコバイ	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
カメムシ	一部の圃場で発生が見受けられました。

3 これからの管理について

- ① 6月下旬以降では7月5日、14日がいもち病発生の準好適日となりました。今回の調査でも半数以上の圃場で発生が確認されており、今後の天候によりいもち病が増える可能性があります。すでに葉いもちが発生している圃場では、穂いもちが発生するおそれがあるので出穂前防除を必ず行ってください。
- ② 令和4年度病害虫発生予報 第3号(7月21日発表)では、ヒメトビウンカの発生がやや多い予想です。令和4年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウィルス保毒検定結果は平均1.1%で昨年より保毒虫率は下がっていますが、発病株を見つけた場合は、できるだけ早く株ごと抜き取り、感染拡大を防止してください。
- ③ 県下では斑点米カメムシ類が発生はやや多い予想となっています。畦畔・雑草地の除草は、出穂2週間前までに実施しましょう。出穂間近の畦畔除草は、かえって圃場内へのカメムシ類の移動を促進するので避けて下さい。圃場内のヒエは早めに抜き取りましょう。
- ④ 乳白米や登熟不良による品質低下を防ぐため、出穂後4週間(少なくとも3週間)は間断灌水による水管理を行いましょう。根の活力維持のため、極端な圃場の乾燥や水の貯めっぱなしに注意して下さい。